

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には370セント/ブッシェル台で推移していたが、米国産の豊作が確定する一方で、南米産の生育悪化懸念から1月には380セント/ブッシェル台まで上昇した。その後、エタノール需要が低調となったこと、南米の天候が回復したことから下落し、現在は370セント/ブッシェル前後で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には340ドル/トン前後で推移していたが、高温乾燥による南米産大豆の減産懸念から350ドル/トン台まで上昇した。その後、2月8日発表の米国農務省需給見通しで、米中間の貿易摩擦などにより米国からの大豆輸出が下方修正されたことから下落し、現在は340ドル/トン前後で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には50ドル/トン前後で推移していたが、原油相場が軟調となったこと、中国向けの石炭輸送需要が減少し船腹需給が緩んだことから下落し、現在は40ドル/トン台となっている。
4. 外国為替は、12月には112円前後であったが、米国株価の急落を受け、1月には110円を下回る水準まで円高がすすんだ。その後、良好な米国経済指標により株価が回復したことなどから円安となり、現在は111円前後となっている。

